

参考資料

1. 城内地区まちづくり懇話会 委員名簿

(敬称略 50音順 ◎座長)

氏名	所属
芦田 征子	公募委員
池内 裕	尼崎市企画財政局都市政策部長
◎角野 幸博	武庫川女子大学生活環境学部教授
鴨谷 敏明(H17.7.1まで) 吉田 嘉津巳(H17.7.1から)	阪神電気鉄道株式会社(鉄道事業本部運輸部課長)
坂口 英雄	尼崎信用金庫(尼信博物館館長)
西川 春敏	公募委員
西山 信太郎	市庭社会福祉協会会長
野山 恭一	公募委員
羽間 美智子	公募委員
原田 富	城内社会福祉連絡協議会副会長
正岡 茂明	公募委員
松岡 武夫	北城内社会福祉協会会長
南田 雄二	尼崎商工会議所(産業部事業総括)
山本 勝三	公募委員

(事務局職員等)

辻川 敦	尼崎市総務局地域研究史料館課長補佐
森 省二	尼崎市都市整備局建築課係長
桃谷 和則	尼崎市教育委員会事務局歴博・文化財担当主任
佐々木 伸司	尼崎市企画財政局都市政策課長(事務局)
伊藤 裕章	尼崎市企画財政局都市政策課係長(事務局)
立石 孝裕	尼崎市企画財政局都市政策課係長(事務局)
岡本 壮平	(株)地域計画建築研究所研究主査

2. 懇話会の活動経過

懇話会、部会（開催日）	主なテーマ
プレ部会（6/6）	○勉強会（尼崎、城内の歴史を学ぶ） ○まちあるき（城内地区～寺町地区）
第1回懇話会（6/11）	○懇話会の立ち上げ ○現地見学（旧城内中学校、旧尼崎警察署）
第1回部会（7/8）	○意見交換会（城内周辺のまちづくりについて）
第2回懇話会（7/28）	○地域資源を活かしたまちづくりについて考える
第2回部会（8/5）	○事例視察及び勉強会 ・歴史的建築物を活用しながら保存している事例を見る （京都芸術センター（旧明倫小）、京都市学校歴史博物館（旧開智小））
第3回懇話会（8/30）	○城内まちづくりの目標、基本方針の検討
第3回部会（9/21）	○中間まとめに向けて
第4回懇話会（10/1）	○中間まとめ
第4回部会（10/17）	○中間まとめの補強
広報と意見収集 （10～12月）	○市民意見の把握 ○市民へのPR ○城内フォーラム（11/6）
第5回部会（1/27）	○実現に向けた取り組み、課題の整理
第5回懇話会（2/9）	○とりまとめ ○今後の課題整理

城内地区まちづくり懇話会 委員からの「ひとことメッセージ」 (敬称略、順不同)

芦田 征子 委員 (公募委員)

戦後荒廃の中から今日の繁栄を持つと同時に多くの物を失いました。負の遺産の多い尼崎市にあって、「歴史と文化の薫る町」づくりの拠点として再構築がスタートし、次世代に残す義務と責任を感じる懇話会でした。

池内 裕 委員 (行政委員・尼崎市都市政策部)

懇話会では委員の方々から多彩な意見を聞くことができました。今後とも多くのひとを巻き込んで、楽しい、賑やかなまちづくりに取り組んでいきたいと思っています。よろしくをお願いします。

角野 幸博 委員 (座長、武庫川女子大学)

尼崎の都市イメージをより深く、豊かにするチャンスです。街とハコモノとをひとつながり（人つながり）でマネジメントできるよう工夫してみましょう。城内地区ならではのタウンマネジメントの仕組みができればいいなと思っています。

坂口 英雄 委員 (尼崎信用金庫 尼信博物館)

尼信博物館は、大坂城の西の守り尼崎城をイメージした白壁の建物で、地域の芸術文化の発信基地としてご利用いただきたいと考えています。城内地区まちづくりとともに尼崎市の魅力発信をしてまいりたいと存じます。

西川 春敏 委員 (公募委員)

城内地区は近世の尼崎城があった場所がかつては官庁街でもあり、本市にとって特別な土地柄です。地域資源としての近代建築を利用して、多目的ホールや尼崎歴史センターを造っていただき、後世の人に伝えるべきだと提言します。

西山 信太郎 委員 (市庭社会福祉協会)

城内小学校に通っていた頃、女高(旧城内中)との間に土俵があり、よく相撲をとりました。桜井座や阪神/パンがあり、ノロ汽車が走っていた昔の話です。古いものは思い出や誇りになります。是非、活かしていただきたいと思います。

野山 恭一 委員 (公募委員)

今回、「尼崎市のふるさと」とも言える城内地区の「まちづくり」に、市民として関わることが出来たいへん嬉しかった。様々な体験を通して、より一層、「尼崎市」への愛着が深まった。今回の提言が、少しでも早く、実現化されることを切に希望します。

羽間 美智子 委員 (公募委員)

単前の技術と感覚を伝える建築を地域史料館・博物館として再生し、城内を歴史文化ゾーンの核とすることは非常に意義深いと思います。歴博予定地の活用を含め、今後については現に城内に住んでいる人の意見をもっと聞く必要があるように思います。

原田 富 委員 (城内社会福祉連絡協議会)

小学生の頃、桜井神社にはガマの油売りなど“ヤジ”がたくさん出ていて下校時によく寄り道をしていました。城内では夜の人通りが少ないのが気になります。まちづくりにより、住まわれる方が増えることを願います。

正岡 茂明 委員 (公募委員)

この懇話会は本当に有意義でした。所属する「まちづくり研究会」の長年の課題であった旧警察署の活用が実現し、委員の皆さんや地元の方々とお近づきになれたからです。今年も皆さんとともに旧警察署にてイベントができればと思います。

松岡 武夫 委員 (北城内社会福祉協会)

尼崎市内でも城内地区をはじめ寺町など歴史的な場所についてご存知のない方がいらっしゃるのが残念でした。この城内地区まちづくりが進み、歴史や文化のある街であることを広く知っていただければと思います。

南田 雄二 委員 (尼崎商工会議所産業部)

歴史と風格を感じる城内地区に残る近代建築物。時代の変化の波にもまれながら、人々が喜びや悲しみを共有してきた建築物は大切な地域資源。地域の魅力づくりに繋がる新たな機能を付加し、次代に引き継いで頂きたいと思います。

山本 勝三 委員 (公募委員)

尼崎に住み始めて四十余年。以前に比べて空も水も見違えるようになりました。にも拘らず街中を歩いていて安らぎを感じない。何がこの街に欠けているのだろうか。自分の住んでいる街に関心を持つ。これが必要ではないかと思い、懇話会に参加致しました。

吉田 嘉津巳 委員 (阪神電気鉄道株式会社運輸部)

このたびは城内地区まちづくり懇話会に参加させていただきありがとうございました。弊社は、昨年、開業百周年を迎え、次の新たな百年に向けて地域の皆様とともに歩んでまいります。皆様の活動のご発展を祈念いたしております。

井上 真理子 氏 (ゲストコメンテーター、尼崎探訪家)

町を知るとは、どういうことなのだろう。町はさまざま顔をもっているから、図書館で尋ねてみても、大学の研究室でも捜せないこともあるかもしれない。尼崎の町を描くとき、私はそこに暮らす人々の、生活の匂いを大切にしている。それは、確かに町に息づいていて、町の顔を作っている。

市沢 哲 氏 (ゲストコメンテーター、神戸大学)

懇話会ではこれからの博物館・文書館のあり方について、いろいろな意見を聞くことができ、私自身も参考になりました。歴史的建築物を損なうことなく、城内に博物館・文書館が開館し、これらの施設が単に「見せ物」を収める箱ではなく、地域に対する市民の関心を高め、市民の学習活動を支えていく、文字通り市民のための施設になるよう願っています。これまでの尼崎市民の取り組みをみれば、それは十分可能だと思います。